



15:30-17:00
記念講演会

「百年後」



TEZUKA TAKAHARU

手塚 貴晴

建築家。手塚建築研究所共同主宰。1987年武蔵工業大学卒業。1990年ペンシルバニア大学大学院修了。1994年までリチャード・ロジャース・パートナーシップ。1994年手塚建築企画を手塚由比と共同設立。2009年より東京都市大学教授。日本建築家協会賞、日本建築学会賞、BCS賞、RAIC international、WAF、ヴェネツィアヴィエンナーレ、カーネギーインターナショナル 他。



ふじようちえん Photo by Katsuhisa Kida/FOTOTECA

建築は少なくとも100年生きるべきである。

いつの頃からであろう。日本の建築の寿命は短くなってしまった。たった25年しか経っていない建築が時代遅れだと言われ、50年を経ると議論の余地なく建て替えが前提となる。建築資材のリサイクルが語られる。間違いである。建築はその時代の人々による精一杯の努力であり、生きた証でもある。勿論全てを残すことは間違いであろう。しかしその該当建築の優劣に関わらず、機能的な理由だけで取り壊し続けると、文化が残らない国になってしまう。建築は少なくとも100年生きるべきである。

現地ライブ
2024 **11/20** 水

【開場12:30】13:00-17:00

会場：イノカンファレンスセンター 4F Room A
(東京都千代田区内幸町 2-1-1)

【ライブ配信】無料、事前申込制

【WEB配信】12月3日(火)・5日(木) 13:00-17:00
無料、事前申込制

【交流会】事前申込制(有料) 17:15-

会場：イノカンファレンスセンター Room C

※会終了後、パネリストや自治体の方々等と意見交換の場として交流会を開催

【定員】現地・ライブ・WEB配信いずれも定員100名

申込フォームはこちら



事前申込制
参加無料
※交流会は有料
いずれも
定員100名

13:05-15:15

保全技術研究会

【テーマ】「これからの公共建築マネジメントを考える」
-DXにおける自治体庁舎の将来像-

地方自治体においては、脱炭素化、危機管理、働き方改革、人材不足、DXなどの新たな課題への早急な対応が求められており、公共建築マネジメントの方向性にも大きな影響があると考えられます。今回は、DX推進の中で、行政サービスの利便性向上や業務効率化、職員の働きやすさに寄与することを目指すオフィス改革の視点から、自治体庁舎の将来像に焦点を当て、先行事例から見えてくる推進の方策や課題を踏まえた議論を行う予定です。

【研究発表】公共建築マネジメントの状況調査報告

中田 修 (一般財団法人建築保全センター 第一研究部長)

【事例発表①】シン・トセイ 都庁のワークスタイル変革プロジェクト (仮題)

吉成 恵子 (東京都 デジタルサービス局デジタル戦略部デジタル改革担当課長)

【事例発表②】Change せいよ!~西予市におけるオフィス改革の取り組み~

稲口 智博 (愛媛県西予市 政策企画部デジタル推進課デジタル推進係係長)

【パネルディスカッション】

《パネリスト》

足立 文 株式会社日本経済研究所 執行役員 公共デザイン本部長

稲口 智博 愛媛県西予市 政策企画部デジタル推進課デジタル推進係係長

吉成 恵子 東京都 デジタルサービス局デジタル戦略部デジタル改革担当課長

山本 康友 東京都立大学 客員教授

《コーディネーター》林 理 一般財団法人建築保全センター 参事

主 催 ◆ 一般財団法人 建築保全センター 後 援 ◆ 国土交通省 / 全国知事会 / 全国市長会 / 全国町村会

協 賛 ◆ 一般社団法人 公共建築協会 / 一般財団法人 建築コスト管理システム研究所 / 一般社団法人 日本建設業連合会 / 一般社団法人 日本建築学会
(予 定) 公益社団法人 日本建築士会連合会 / 一般社団法人 日本建築士事務所協会連合会 / 公益社団法人 日本ファシリティマネジメント協会